

# 北のとびら

vol. 136

令和7年9月



それでも  
腹は減る

上川  
中部・南部  
エリア特集

特集 | 作・七坂稲×演出・松井周(サンプル主宰) interview

第10回 北海道戯曲賞大賞受賞公演

『迷惑な客』

アート巡礼 上川中部・南部エリア／つくる人in旭川市 山野照人／ジモトデザイン 上川町・上川大雪酒造  
マチカド芸術 旭川市『開拓のイメージ』／ART FILE 風間雄飛



七坂 稲(ななさ いね)／1976年、福岡県で生まれ神戸などで育ち、現在は兵庫県在住。2021年、『再生』で「日本の劇」戯曲賞2021佳作。2024年、『迷惑な客』で第10回北海道戯曲賞大賞受賞。同年、『海ではないから』で「日本の劇」戯曲賞2024年佳作。

**七坂** 表に出していない作品ですが、一度だけあります。宗教にのめり込んでいく家族の話で、そのきっかけとして震災があった、という設定でした。今作は震災の年に生まれた人々が主役ですが、七坂さんご自身も神戸市で被災されていますよね。

**七坂** 私は高校3年生でした。幸い怪我もなく、家も無事でしたが、同級生の中には家族を失ったり、家が倒壊してしまった人がたくさんいました。18歳という年齢は、まだ大人とは言えず、周囲の

深い悲しみに戸惑うばかりでした。ただ、そんな中でも、「子どもが生まれた」と聞くたびに、強く感動したことを今でも覚えてます。あの年に生まれた子どもたちは、もう30歳を超えました。時間の経過と同時に、「あの頃に生まれた子どもたちは希望だ」という思いが湧き、顔も知らない彼らのことをどこか愛おしく思っている自分がいて、彼らの物語を書いてみたい、という気持ちが生れました。ただ、震災を直接描くことには、今でも抵抗があります。実際に震災を経験した人が、その様子を詳細に描いた作品を目にしたとき、「これは事実とは違う」「いや、これは本当だった」といった受け止め方になってしまう。そうした判断にとらわれてしまう作品にはしたくないという思いがあり、これまでもあえて直接的な描写は避けてきたのだと思います。

『迷惑な客』も震災の直接的な描写こそありませんが、それが

『迷惑な客』の執筆の経緯を教えてください。

**七坂** この作品は2年前、北海道戯曲賞への応募を目指して書き上げたものです。ちょうど阪神・淡路大震災から30年という節目の年だったこともあり、作品を通して震災に触れたいという思いがありました。そして、あるファーストフード店で遭遇した、迷惑な客が創作のヒントになりました。

その『迷惑な客』とは、どんな人だったのですか？

**七坂** 若いカップルだったのですが、とてもはしゃいでいて、大きな声で会話をしていました。周囲の人たちは冷ややかな目を向けていたのですが、ふとその二人が待機児童の問題について真剣に話し始めたんです。もしかしたら、子どもを預けて、久しぶりに二人でランチに来ていたのかもしれない。そう思った時、彼

らの背景にある事情に想像が及び、周囲の視線もどこかあたたかなものに変った気がしました。当時、メディアでは店内での迷惑行為が話題になっていた時期でしたが、一見すると、『迷惑な客』である人たちも、その背景には様々な事情があるのではないかと、思っただけです。

過去の戯曲でも、震災について触れたことはありませんか？

**七坂** 表に出していない作品ですが、一度だけあります。宗教にのめり込んでいく家族の話で、そのきっかけとして震災があった、という設定でした。今作は震災の年に生まれた人々が主役ですが、七坂さんご自身も神戸市で被災されていますよね。

『迷惑な客』も震災の直接的な描写こそありませんが、それが

七坂 稲×松井 周(サンプル主宰) interview

## 第10回 北海道戯曲賞大賞受賞公演

# 『迷惑な客』



第10回北海道戯曲賞で大賞を受賞した七坂 稲さんの『迷惑な客』が、2025年11月に札幌で上演されます。演出を手がけるのは、同賞の審査員であり、第55回岸田國士戯曲賞を受賞するなど、劇作家・演出家・ドラマ脚本家として幅広く活躍する松井 周さん。出演者はすべて、ワークショップ形式で行われたオーディションによって選ばれました。今回はその選考の最中、お二人に『迷惑な客』について語っていただきました。



## 〃迷惑な客〃も一人の人間として存在している

驚きと嬉しさでいっぱいです。登場人物の背景が切実なものでありながら、友人同士の会話の面白さが非常に魅力的で、読みながら何度も声を出して笑っていました。

**松井** 七坂さんの友人関係の描き方って、とても独特だと思っんです。例えば、私が男同士の関係を描くと、どうしてもホモソーシャル的な側面が出てきてしまうと思っんです。『迷惑な客』は、



松井周(まつい・しゅう)／1972年、東京都生まれ。1996年、俳優として劇団青年団に入団。作・演出を手がけるようになり、2007年に劇団[サンプル]を結成。2011年『自慢の息子』で第55回岸田國士戯曲賞を受賞。NHKが立ち上げた脚本開発特化チーム〈WDR〉のメンバーに選抜され、NHK土曜ドラマの脚本を手がけるなど幅広く活躍中。

男同士の友人2人に女性がい人という3人の会話劇ですが、友人同士が野蛮な話をしても、誰も貶めない絶妙なバランスを保っている。男同士の関係性が決してマッチョにならず、かつ面白くて、優しいんですよ。会話も綿密で、「ボテトはしんなり派かカリッとか派か」という軽い話をしていたかと思えば、次の瞬間には「ホヤと人類」の話になっている。スケールが急に変

化するのがとても面白くて。**七坂** 日常会話って、脈絡があるようでないというか、想像もしなかった方向にいきなり転がっていくものですよ。この作品は、無戸籍者や孤児、学習障害など、社会の中で生きづらさを抱える人への眼差しの優しさもありました。

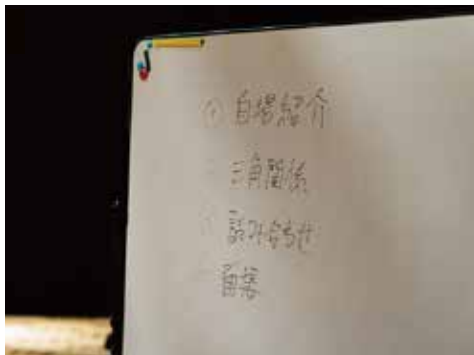
**七坂** 社会的弱者とされる人たちは、もともと「弱者」として生まれたわけではありませんが、彼らは私たちがとは異なる存在ではなく、「弱者」とされる人たちも含めて、「社会」なのだとは思っています。社会からはみ出してしまった人や追いやられてしまった人に対して、「自己責任」という言葉で片付ける風潮が目立ちますが、そうじゃないんですよ。

北海道戯曲賞の大賞作品

は、受賞記念公演として上演されます。今回は劇団を主宰していない七坂さんの受賞により、出演者をオーディションで募ることになりました。演出を担当するのは松井さんです。

**松井** 北海道文化財団さんから演出のお話をいただいたときは、「この作品の演出ができるんだ！」と、素直にうれしかったんです。『迷惑な客』とひとくくりにかっこで括ってしまうと、まるでラベルを貼られたように、個々の違いや複雑さが見えなくなってしまう

ワークショップ形式で行われたオーディションは、札幌のターミナルプラザことにバトスで実施。室内で最も居心地のよい場所を自ら選び、その理由を語る「自場紹介」をはじめ、ユニークなプログラムが用意され、和やかな雰囲気の中で進行。台本の本読みも、アドリブを交えながら行われ、役者の魅力が自然に引き出されました。



演出では「人間もまた動物の一種である」という感覚を、もう少し前に出していきたいと考えています。そうすることで、『迷惑な客』とひとまとめに括られていた存在が、その枠から少しずつ外れていくという。かっこがほどけていつ、個々の身体や感情が立ち上がってくるような、そんな演出ができたらと思っています。

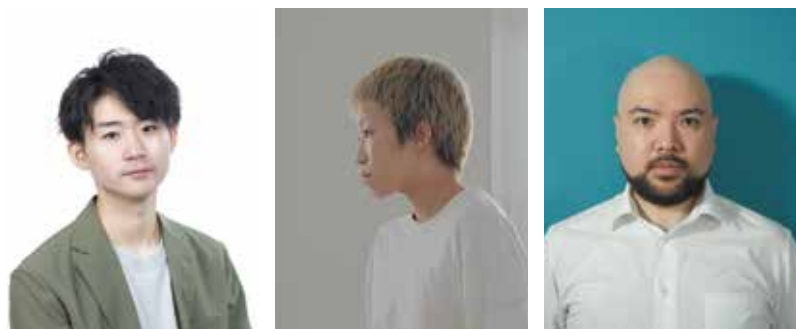
**七坂** 『迷惑な客』では、登

場人物一人ひとりに細かな設定を与えていないので、今回オーディションで選ばれる役者さん自身が持っている個性や雰囲気、そのまま役に生きてくると思っています。自由に、そして思いきり楽しんで演じてほしいですね。とて

もワクワクしています。**松井** 七坂さんがおっしゃる通り、この作品は非常に自由度が高い。役者一人ひとりの無防備な魅力がふつと立ち上がるような、オーディションもそんな空気で進めていきたと思っています。同じ台詞

でも、人によって身体への反応や動きが違えば、言葉の出し方や響きも変わってくる。その差を楽しみながら探つていきたいです。

**11月の公演が楽しみです。**



取材から1週間後、出演者が決定。左から梅原たくとさん(ELEVEN NINES)、福永知花さん、ボロミンさん。10月から札幌で稽古が始まります。

**七坂** どこに住んでいても、自然災害は決して他人事ではないです。ね。もつと言え、災害でなくても、家族や家を失うような出来事は、誰の

身にも起こりうることだと思っっています。だからこそ、30年前の震災そのものを経験していても、共感できる部分はきつとあるはず。そして、『迷惑な客』というひと言ではとても言い表せないような、複雑で多面的な部分もまた、誰の中にもあると思っんです。作品を通して「自分にもこういう面があるかもしれない」と感じてもらえたらうれしいです。『こ』という人近くに「いるかも」と思っ浮かべてもらえるだけでもうれしい。どこかにいるであろう人間、の姿を、舞台を通して見てもらえたらと思っいます。

**松井** コントのように思わず笑ってしまう会話が楽しめる作品です。ファミレスや牛丼屋で、隣の席から聞こえてくる会話に、なんとなく耳を傾けるような気持ちで楽しんでくてもいい。今現在、つらい状況にある人でも、その会話の中に、きつと共鳴できる言葉が見つかると思っいます。演劇をあまり観たことがない

方も、お笑いが好きな方も、演劇を愛するコアなファンも、満足していただけるはず。そして役者たちの、存在の面白さ、もぜひ楽しんでいただきたい。芝居の上手下手ではなく、「なんだかこの人、面白いな」と思えるよう

な魅力があると思うので。演出家としてはプレッシャーも大きいんですが(笑)。**七坂** とても楽しみにしています！

ロング版インタビューをWEBで公開中



### information

#### 第10回北海道戯曲賞 大賞受賞公演『迷惑な客』

【作】七坂 稲 【演出】松井 周(サンプル) 【出演】梅原たくと(ELEVEN NINES)、福永知花、ボロミン

【日時】**2025年11月15日**ⓧ**13:30開演(★1)** **18:00開演(★2)**  
**16日**ⓧ**13:30開演**

※開場は開演の30分前 ※11/15(土)は終演後にアフタートークがあります  
★1登壇者 松井 周/七坂 稲 ★2登壇者 松井 周/福原 充則(劇作家・演出家)

【会場】**ジョブキタ北八劇場** (札幌市北区北8条西1丁目3番地「さつきた8・1」2階)

【チケット】前売券 一般/3,500円 **U-25/ 2,000円** ※全席自由  
当日券 一般/4,000円 **U-25/ 2,500円**

### STORY

東京。現在。いつものファミレス。中華店の洗いの男1と、戸籍がなく職もない男2がくだらない話をしている。ドリンクバーで3時間もこうしている。テーブルの上にはたくさんの飲み終わったコップが並んでいる。二人共、あの町にゆかりがある。三十年前、地震のあったあの町に。

公演に関するお問い合わせ

公益財団法人北海道文化財団 TEL 011-272-0501(8:45-17:30 土日祝日除く)

※詳細は財団ホームページ(<https://haf.jp/>)をご覧ください。

## 役者たちの存在の面白さを楽しんでもらいたい



# 上川中部・南部エリアで探すアート

各施設の  
詳細は  
WEBで  
公開中



## 12 自然にも人にもやさしい籠のギャラリー 北の竹工房 千島笹工芸館



京都で竹工芸を学んだ竹工芸家・近藤幸男が開館した、比布産千島笹を使った籠の工芸館。常時200点余りの作品を展示・販売するほか、千島笹の簡単な作品を作るワークショップも開催しています。

## 11 アイヌ文様をモチーフにした陶芸作品 風神窯



1976年に旭川で開窯し、1983年に鷹栖町に移窯。地元の「台場火山灰」を釉薬に活用し、独自の技法を用いたアイヌ文様の陶芸品を制作・展示しています。手びねりによる陶芸教室・陶芸体験も受付中。

## 10 コンサートや講演会で賑わう町の憩いの場 公民館まともーる



構造材や内装材に町産材を活用し、2014年度の木材利用優良施設コンクールで、林野庁長官賞を受賞した多目的施設。ロビーには、郷土芸能「当麻蟠龍隊の龍」も展示されています。

## 09 大雪山連峰の大自然の中でつくる木製家具 匠工芸



四季折々の自然に囲まれた本社工場に、工場とショールームを併設。2階のショールームでは実際に椅子やテーブルなどの家具に触れたり、座ったりして、匠工芸ならではの技と「心地」を体感できます。



## 08 新潟から移築した築200年の喫茶美術館 新星館



司馬遼太郎作品の挿絵で知られる洋画家・須田剋太と人間国宝の陶芸家・島岡達三の作品約200点を展示している美術館。十勝岳を眺望する展望室や館内カフェ「喫茶美術館」もおすすめです。

## 05 空知川周辺の自然豊かな環境での暮らしを体験 暮らす宿ソラプチ (Sorapchi Cabin)



染色作家・坂本友希が夫婦で営む一棟貸しのコテージ。夏はフライフィッシング、ラフティング、カヌー、森歩き、冬はスキー、スノーボード、ワカサギ釣り、カーリングなど四季折々のアクティビティが楽しめます。

## 06 名作ドラマのロケ地を生かした文化拠点 喫茶・ギャラリーあかなら



ドラマのロケ地として、ファンに愛された「北時計」が市民ボランティアによって、喫茶・ギャラリーに。書や絵の展示、アーティストのミニライブ、落語の独演会など、文化の発信拠点にもなっています。

## 07 オリンピアンも愛するクライミングホールド工房&ショップ VOCK



「土に還るモノ作り」を理念とし、木材から一つひとつ削り出してつくるクライミングホールドを製作する工房兼ギャラリー。天然石と木を融合させたアクセサリも人気。訪れる際は事前に予約が必要です。



刺激がいっぱい

上川中部・南部エリアのアートスポット

## 01 商店街の中に地域交流や情報発信の拠点 蔵KURARAら(くらら)



大正13年築の札幌軟石の酒蔵を改装し、コミュニティホールとして再生。パーティーや会議、コンサートなどを行う多目的ホールのほか、憩いの場となる喫茶コーナーや特産品販売コーナーも併設されています。

## 02 東川の技術力とデザイン性に優れた木工製品めぐり ひがしかわ家具とクラフトお店マップ



「旭川家具」の約3割を生産する東川町は、「家具・クラフトの町」。町内約30の事業者や公共施設を紹介する「家具とクラフトお店マップ」は毎月更新され、道の駅ひがしかわ「道草館」をはじめ各施設で配布されています。

## 03 歴史ある蔵で楽しむギャラリー CAFE+GALLERY 我礼里亜



趣のある蔵は100年近い歴史があり、その風情も魅力の一つ。地元作家の作品はもちろんのこと、季節ごとにさまざまな作品を入れ替え、展示しています。日替りランチやスイーツ、ディナー(要予約)も人気。

## 04 毎年新作が加わる個人美術館 北海道風景画館



画家・奥田修一が開館した美術館。現在進行形の創作の熱量を間近で感じられます。絵画のモチーフになっている季節の花が咲き誇る里山庭園やマリア御堂など、ノスタルジックな雰囲気も魅力。





クリエイティブディレクターを務める新村銀之助さんが創業前、半年かけて完成させた上川大雪酒造のシンボルマーク。「受け継がれていく普遍的なもの」として、日本酒と家紋のイメージが見事に合致。

2 017年、上川町に戦後初の日本酒の酒蔵「緑

**2** 017年、上川町に戦後初の日本酒の酒蔵「緑丘蔵」を新設し、“地方創生蔵”をコンセプトに日本酒造りをスタートさせた上川大雪酒造。北海道産の米と地元の水にこだわり、小仕込みで丁寧に造られた酒はここでしか味わえない唯一無二の価値を生み出しています。

その酒の“顔”ともいえるラベルのすべてに配置されているのが、シンボルとなっている家紋のようなロゴマーク。制作を担当したのは、同社のクリエイティブディレクターを務める新村銀之助さんです。新村さんは化粧品メーカーでクリエイティブ部門の責任者を務めていた時代に、塚原敏夫（上川大雪酒造・社長）さんと出会い、その縁で創業以来クリエイティブに関わる全般とブランディングを担ってきました。「日本酒の顔となるラベルについては、当初

はかっこいい書(筆文字)のデザインを追究しましたが、単体ではいいなと思っても、ほかの商品と並べた時に埋もれてしまう気がしたんです。酒蔵は地方創生をコンセプトにしていたので、ずっと先まで受け継がれていく普遍的なものが作れないだろうかと考えた末に家紋のデザインにたどり着きました」と新村さんは語ります。

まずは北海道、大雪山というところから「雪」をイメージしたと言う新村さん。「雪の結晶は六角形。これをベースに作ると、繊細な仕上がりになってしまって……もう少し日本酒の持つ力強さを表現したいと思っていたときに、日本酒の五味(※)を表す五角形はどう?という意見が出て、あらためてデザインを練り直すことにしました」。結局、細かい調整を含め、ロゴが完成す

るまでに半年もの時間をかけた  
といいます。その甲斐あって今  
では「このマークのお酒＝上川  
大雪酒造」と認識されるほど、そ  
の存在感は大きくなりました。

2020年には帯広市に2つ目の酒蔵「碧雲蔵」を新設、さらに上川町内にレストランやチーズ工房、ホテルの運営を行うなど、企業としての成長も著しい同社。

事業規模が大きくなるほどロゴマークは家紋のように、一目でわかるアイコンの役割も果たしています。まさにこのロゴは上川大雪酒造が紡いでいく歴史や文化、作り手たちの物語を深く刻みながら、受け継がれていく“家紋”。世代を超えて愛され、信頼されるブランドの証として、上川大雪酒造の未来を照らし続けます。



▶ 碧雲蔵「十勝」の創業から4年、チーズに合う日本酒として大ヒットした「with Cheese」。ラベルはイエロー、グリーン、ブルーの3色が目を惹くポップなデザインながら、「家紋」が配置されています。



◀ 見ているだけで楽しくなる「Enjoy日本酒」シリーズ。ラベルはサーファートのバイオニア 豊田弘治氏が手がけています。「こんなデザインなら日本酒を飲んでみたいと手を伸ばしてもらえるようなモノづくりをしたい」。豊田さんと新村さんはそんな思いを共有しました。

※五味とは「甘い」「辛い」「酸い」「苦い」「塩辛い」の5つの味覚を示す言葉で、日本酒の場合は、「塩」は「渋」に変わる。

## DATA

緑丘蔵／緑丘蔵 Gift Shop(酒蔵に隣接するショップ) 上川町旭町25-1 TEL 01658-7-7380  
<https://kamikawa-taisetsu.co.jp/> 営業時間／10:00～16:00(夏季)10:00～15:00(冬季) 定休日／不定休

地方創生の  
酒蔵から世界へ  
上川大雪酒造



ミニチュア陶芸家(工房てると) **山野照人**

小

さくて精巧な壺や

密に仕上げられた陶器を生み出すのは、ミニチュア陶芸家・山野照人さん。旭川の住宅街に構えた工房で、小さな器をつひとつ丁寧に仕上げています。

大学時代から油彩を学び、その後も風刺作、鉄道模型やステンドグラスなど創作に勤しんでいた山野さんが陶芸に出会ったのは50歳の時。特別支援学校で美術教師を務める傍ら、子どもたちの良い刺激になるのでは」と思い、1年間と期限を定め、陶芸教室に通いはじめました。

土に触れるうちに陶芸の奥深さに魅了されたという山野さん。週6回も教室に通い詰め、創作に励むようになりました。

転機が訪れたのは、陶芸を  
 はじめて3年目のこと。陶芸  
 教室の生徒が手がけた小さ  
 な焼き物に心を奪われ、「孫  
 のおもちやに良い」とミチユ  
 ア陶芸に挑戦。取り組む人  
 がほとんどいなかった当時、山  
 野さんは持ち前の探究心か  
 ら手探りで技法を模索しま



山野照人  
(やまの・てると)

旭川市生まれ。油彩や風制作、  
鉄道模型づくりなどを経て、特  
別支援学校の教師時代にミニ  
チュア陶芸に出会う。2004年  
ジャパンギルド(日本ミニチュア  
作家協会)会員、2021年日本  
ドールハウス協会会員に登録。  
●工房でと  
旭川市川端町4条7丁目3-23  
<https://note.com/kbteruto>

悔しさをバネに、「もっと小さく、もっと美しく」と技術を磨き続け、翌年に正規会員に登録。教職を退いた後も創作への追求は止まる

ことなく、2010年には、自宅敷地内に「工房でと」を建てました。鉄道模型に没頭していた時代に培った彫金の技術を活かし、ステンドグラスを用いたり、小さな作品に、自身の技術を惜しみなく注ぎ込んでいます。時にはドールハウス教室から140点を超える注文が入るなど、忙しい毎日を送る山野さん。「ミニチュア仲間も増えて、自分の世界が広がりました」と、指先に収まるほどの小さな器が、山野さんの人生を思いがけず豊かに、大きく動かしてくれました。

した。専用の道具もなかったため、指の代わりとなる成形道具は堅い木材を削り出して自作。口縁をなめすには紅筆を使いました。とくに苦勞したのは、数挽ぎのあと成形した作品を粘土の塊から切り離す工程。崩れやすい小さな形をどう保つか、試行錯誤の末に、バッテリーナイフを用い



▲山野さん渾身の作品の一つである常滑焼の急須。常滑の朱泥土は他の作品より低い温度で焼成しなければ変形します。他の作品とは同時に焼けないので、数





## 生活の中にある昔の記憶と重なる場面をモチーフに

**絵**を描いた最初の記憶は、4〜5歳の頃。当時流行していたビックリマンシールのお気に入りのキャラクターを必死に模写し、母に褒められたことが嬉しかったのを覚えています。私にとって絵は生活に欠かせないもので、「絵を描くことを好きであり続けたい」と思っていました。

大学進学の際は、美術系に進み絵画に真剣に取り組んでしまうことで、描くことが嫌いになるのではないかと、絵描きになると絵を描くことを憎むことにも繋がるのではないかとという危惧がありました。結局私は、卒業後の就職も考えて、デザイン学科のある道都大学への進学を決意。ところが、入学してから1〜2年すると、「本気で絵を描きたい」という気持ちが抑えられなくなり、油彩のゼミを選択することに。ところが、自分の絵に魅力を見出せず、彫

刻へ転向するも、そこでも納得することはできませんでした。

転機となったのは、大学4年の卒業間際。友人の勧めで初めてシルクスクリーンを体験しました。思い通りには刷れず散々でしたが、でき上がった作品にはこれまでにない魅力を感じたのです。うまく刷れなかった悔しさと、これまでとは全く違う方法での画面づくりに魅了された私は、卒業後も1年間大学に残り、シルクスクリーン制作に没頭。私は再び、絵を描く喜びを取り戻すことができました。

その後は、さらなる可能性を求めて東京造形大学大学院へ進学。第3回秀桜基金留学賞を受けてドイツにも留学し、海外に身を置くことで、日本の良さを見過ごしていたことに気づき、自分の中にある日本的感性を意識できるようにになりました。

シルクスクリーンの魅力は、紙

や布だけでなく、陶器やガラスなど様々なものに刷れる自由さにあると思います。版画の歴史の中ではまだ100年ほどの新しい技法ですが、印刷技術として今も使われ続けているため、新しいインクや道具が常に開発されていて、可能性が広がっています。私は透明インクに水彩絵の具を混ぜて色作りをすることが多く、あえて薄めに調合し、刷る回数で彩度を調整しています。

作品づくりのインスピレーションを得るのは普段の生活の中で、デジャブのように、昔の記憶と重なる場面に出会った時。ちょっとしたポーズや仕草だったり、言葉だったり、テレビの一場面だったり、詩や本を読んだ時だったり様々です。最近では、もっぱら1歳の娘からインスピレーションを得ています。

今回の個展『おふたりやま』のテーマは記憶の移ろい。約7年間

で制作したお気に入りの思い出のある版画作品やドローイングを約20点展示しています。ここ数年の作品が一同に並ぶことで、自身の記憶の変遷を辿るような展示となりました。見てくれた方にも、大切な記憶を憶うきっかけとなれば嬉しいです。

今後は自身の作品制作に加えて、札幌で版画の普及活動をしていきたいと考えています。まだまだ構想段階ですが、札幌に版画制作や版画を学べる場所を作ることや、札幌の他分野で活躍するアーティストと版画家が積極的に関わりを持てる企画などを考えていきたいと思っています。

### 風 間 雄 飛

1982年上川郡東川町生まれ、札幌在住。  
「うつろい記憶」をテーマに、主に版画制作を行う。移ろい続け、曖昧で不確かな境界を失っていく儚い記憶の姿を、和紙の表裏両面にシルクスクリーンで刷り重ねて表現する。札幌を中心に国内外で活動を行う。  
●Instagram @yuhikazama



マチカド  
芸術  
Vol.07

開拓のイメージ

旭川市

入場  
無料

北海道文化財団アトスペース企画展vol.61

風間雄飛 個展『おふたりやま』

2025.8.5〜2025.10.18 9:00〜17:00

場所／札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル3F

※土日祝年末年始休館 ※ただし最終日の10/18（土）は開館  
※都合により臨時休館する場合があります。

問い合わせ／011-272-0501

詳しいSTORYはWEBで



JR旭川駅から続く平和通買物公園の7条通に設置された高さ21メートルにも及ぶシンボリックな「開拓のイメージ」。この野外彫刻は、愛別町出身の彫刻家・中井延也によるものです。



## 募集中の事業・募集予告

## ●「人づくり一本木基金事業」顕彰事業

## 令和7年度「ものづくり一本木選奨」推薦募集

工芸美術及びものづくり等の分野において、その向上発展に関し功績が顕著な個人又は団体等を顕彰します。

募集締切：2025年12月5日（金）

詳しくはこちら→[https://haf.jp/ippongi/fund\\_recognition.html](https://haf.jp/ippongi/fund_recognition.html)

## ●北海道文化財団ART CAFÉ

## コナリミサト アーティストトーク 参加者募集

さまざまなジャンルで活躍するアーティストをゲストに迎え、アートを通して豊かな時間を過ごす北海道文化財団ART CAFÉ。今回は、漫画家として活躍するコナリミサトさんをお迎えし、代表作『皿のお暇』を中心に、作品にまつわるエピソードや裏話を『皿のお暇』初代担当編集者と共にたっぷり語っていただきます。



日 時：2025年11月3日（月・祝）13:00～14:00

会 場：北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎） 赤れんがホールA

定 員：80名（先着順）

参 加 料：1,000円（税込）

申込方法：右記二次元コードよりお申込みください。



ゲスト：コナリミサト（こなり・みさと）

7月22日生まれ。ハイティーン向けファッション雑誌『CUTiE』（宝島社）で漫画家デビュー。既刊にドラマ化された『珈琲いかがでしょう』（マックガーデン）、『ひとりて飲めるもん!』（芳文社）他。『月刊エレガンスイブ』（毎月26日発売）で『皿のお暇』を連載し、2025年4月号で最終回を迎えた。『皿のお暇』はTBSでドラマ化された他、第65回小学館漫画賞など受賞多数。単行本は累計550万部を突破。

## ●令和7年度舞台芸術ネットワーク会議 参加者募集

道内で先進的な文化事業に取り組んでいるホール等による事例発表や、北海道文化財団が令和8年度に募集する事業の説明を行い、市町村や各文化施設等の担当者に有用な情報を提供するとともに、芸術文化関係者のネットワークの形成を目的に開催します。

日 時：2025年11月19日（水）13:00～15:30

会 場：札幌市教育文化会館 研修室301

内 容：① 事例発表

漢 幸雄（あさひサンライズホール館長兼芸術監督）

② 北海道文化財団 令和8年度事業募集説明会

対 象 者：市町村・市町村教育委員会の文化事業担当者

文化施設の事業担当者

文化団体・舞台芸術団体の担当者

参 加 料：無料

お申込み方法など詳細については、9月下旬に財団ホームページ（<https://haf.jp/>）でお知らせします。

## ●山本卓卓の高校生のための創作ワークショップ 参加者募集

作家であり範田遊泳代表の山本卓卓さんを講師に迎え、高校生を対象とした創作ワークショップを開催します。ワークショップで創作した作品はリーディングとして発表!

日 時：【ワークショップ】2025年11月23日（日）、12月6日（土）、12月20日（土）  
各日11:00～16:00

【リーディング発表】2026年1月25日（日）14:00開演

会 場：【ワークショップ】公益財団法人北海道文化財団 アートスペース

【リーディング発表】扇谷記念スタジオシアターZOO

参 加 料：2,000円（税込）

定 員：10名（原則全日参加できる人）

講 師：山本卓卓

山本卓卓（やまもと・すぐる）

作家、演出家、範田遊泳代表。

幼少期から吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築。オンラインで創作する『むこう側の演劇』や子どもと一緒に楽しめる『シリーズ おとなも子どもも』、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。アジア諸国や北米での公演や国際共同制作、戯曲提供も多数。『幼女X』でBangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『バナナの花は食べられる』で第66回岸田國土戯曲賞を受賞。

お申込み方法など詳細については、10月上旬に財団ホームページ（<https://haf.jp/>）でお知らせします。

## 公演情報

## ●北芸亭 春風亭昇太の落語会

北海道文化財団は、道内における芸術文化及び伝統芸能の発展に向けて、公益社団法人落語芸術協会と連携・協力しながら事業に取り組むため、令和3年度に協定を締結しました。今年度も落語芸術協会会長の春風亭昇太プロデュース公演を開催します。



出 演 者：春風亭昇太（落語）、三遊亭遊雀（落語）、神田松麻呂（談話）、  
宮田陽・昇（漫才）

日 時：2025年10月8日（水）19:00開演

会 場：北海道立道民活動センターかでの2・7 かでのホール

料 金：前売 3,000円、当日 3,500円 ※全席指定・未就学児入場不可

## ●贅沢貧乏『わかつろうとはおもっているけど』

山田由梨主宰の劇団・贅沢貧乏による初の北海道公演。2019年初演、2022年にパリで上演し好評を博した『わかつろうとはおもっているけど』を上演します。現代の日本社会が抱える問題を、奔放な想像力と多彩な手法でポップに浮かび上げさせる作風で話題の贅沢貧乏による、男女の性差について問う演劇作品。



作・演出：山田由梨

出 演：大場みなみ、山本雅幸、佐久間麻由、大竹このみ、青山祥子

日 時：2025年12月13日（土）18:00開演、14日（日）13:30開演

会 場：クリエイティブスタジオ（札幌市民交流プラザ3階）

料 金：前売 一般 3,500円、U25 2,000円、当日券 +500円

※全席指定・未就学児入場不可

## INFO

WEBマガジン「北のとびら」。  
冊子にはない情報も!ぜひご覧ください。



WEBマガジンはこちらから!

<https://haf.jp/kitanotobira/>